

とりけんきゅうじよにひなが来た 自然界はやっぱり厳しい…けれど

朝日新聞デジタル 2023年5月14日 配信

福岡市の筑紫女学園大付属幼稚園に一昨年、「とりけんきゅうじよ」ができた。元々は、「むしけんきゅうじよ」だった。虫好きの井上博子先生(37)が、担当していた年長児と作った。寒くなると虫は減ったが、鳥の声は聞こえた。「じゃあ、とりけんきゅうじよにしようよ」と子どもが言った。巣箱をひとつ、園庭の木に付けた。実は博子先生は、鳥は苦手。「もし鳥が来たら奇跡」とも思っていた。でもその春、ヤマガラが五つの卵を産んだ。ひなの成長を見守っていたが、子どものいない早朝、巣箱はネコに襲われた。巣立ったのは3羽。「生きることは有り難い」と心に刻んだ。

昨年初めに作った新しい巣箱は、木の高い所に付け、ネコよけのとげも巻いた。その春は何も来なかったが、今年3月6日、巣箱に鳥が入るのを見た子どもが教えてくれた。土のようなものが入っていた。「また奇跡が起きた」今度の主はシジュウカラ。教頭先生たちと相談して、ドライブレコーダーを巣箱の天井に付け、廊下の電子黒板で観察できるようにした。同じころ、園庭の別の木のとっぺんには、キツツキの一種、コゲラが巣を作った。中は見えないが親鳥が行き来する。とりけんきゅうじよは、一気に忙しくなった。

新年度、博子先生は年中児の担当になった。「しじゅうからのおうち」の写真を絵日記のように貼りだした。

3月13日 ざいりょうをあつめて、ふかふかのおふとんをつくっているよ

4月1日 ぜんぶで8このたまごをあたためていくよ

15日 たまごがわかれて、ひながうまれたよ

20日 あたまにくろいけがはえてきたよ

25日 めがひらいたよ

電子黒板には、巣箱の中の様子が映し出される。親鳥が来ると「きた!」「ごはんあげてる」「いもむした」。園じゅうの子どもが代わる代わる見入った。卵は1日ひとつずつ産まれるけど、卵がかえるのは同時。殻は母鳥が食べる。ひなは逆立ちしてフンを出し、すぐ親がくわえて外に出す。子どもたちと一緒に「発見」しては、わくわくした。

ひなはぐんぐん大きくなった。親鳥が来るとめいっばい口を開けてエサをねだる。「ひろこせんせい、みて!」と懸命にアピールする子どもたちと重なった。どちらも一層、いとおしくなった。5月2日、巣箱にエサを運ぶ親鳥を子どもと見ていると、隣の木からギーギーというかすかな声が出た。白い斑点のある小鳥が、枝で羽をばたつかせていた。「がんばれー」。みんなが見守る中、コゲラのひなは親鳥と飛んでいった。シジュウカラの巣立ちも近いはず。博子先生は祝日の3日、子どものいない園庭に朝から座り、スマホを構えた。遊具の陰で待つこと4時間。ひなが巣箱の穴から身を乗り出した。親鳥は虫をくわえて来るが、離れて見せるだけで与えない。ひなはしばらくためらい、思い切って飛び出した。すぐ別のひなが顔を出す。15分ほどで次々と巣立ちして、近くの木に飛び移った。直後、カラスが2羽、猛然と襲いかかった。ひなたちは空を逃げ惑う。親鳥が必死にかばったが、1羽がつかまった。「あんなにがんばって育ったのに」。博子先生は悔しそうにつぶやいた。「カラスもおなかをすかせていたんでしょ。自然界はやっぱり厳しい」巣箱を確認すると、白いフンが二つだけあった。シジュウカラの巣立ち率は5割以下というデータもあるが、8羽すべてが巣立っていた。

連休明けの8日、博子先生は巣立ちの動画や写真を子どもに見せた。1羽がカラスに食べられたことも隠さずに話した。「とりさん、とんだことないのに、とんだんだ」壁には「シジュウカラさんのお手紙」があった。

ぼくたちがおおきくなるのをおうえんしてくれて、ありがとう!

みんなのおかげで、とってもいごちがよかったよ

「とりさん、どうやっておてがみかいたの?」と子どもたち。博子先生は「鳥さんが言ってたから、先生が代わりに書いたの」と笑った。次の奇跡に備えて、鳥を鮮明に撮れる一眼レフカメラを買うつもりだ。かけがえのない体験を、子どもの心にくっきり残したいから。(渡辺純子)

【動画】福岡市の都心にある幼稚園が巣箱をつくったらシジュウカラが卵を産んだ。巣作りから抱卵、8羽のひなが巣立つまでを先生と子どもたちが見守った

<https://digital.asahi.com/articles/ASR5C55LXR58TIPE016.html?pn=14&unlock=1#continuehere>



年中児「ぎりん組」の壁に貼られた「しじゅうからのおうち」の記録=2023年5月8日午後0時56分、福岡市中央区、渡辺純子撮影



巣立ったばかりのシジュウカラのひな。隣の桜の木でひと息ついていたら=2023年5月3日午後0時34分、福岡市中央区警固3丁目、渡辺純子撮影



小さな羽を広げて、園庭の巣箱から巣立つシジュウカラのひな=2023年5月3日午後0時27分、福岡市中央区警固3丁目、渡辺純子撮影



コゲラのひなを見守る井上博子先生(中央)や子どもたち=2023年5月2日午前11時25分、福岡市中央区警固3丁目、渡辺純子撮影



シジュウカラのいる巣箱(右上)を見守る井上博子先生と子どもたち=2023年5月2日午前10時41分、福岡市中央区警固3丁目、渡辺純子撮影



巣立ち前日のひな。下に隠れているが、8羽いる=2023年5月2日午後4時21分、福岡市中央区警固3丁目、渡辺純子撮影



1日ひとつずつ増えて8個になったシジュウカラの卵。1円玉より小さい=2023年4月1日、福岡市中央区警固3丁目、筑紫女学園大付属幼稚園提供